【組織理念】

私たちの組織理念は、

「Vision:私たちの目指す社会」

「Mission and Purpose:私たちの使命・存在意義」

「Values and Credo:私たちの信条(強み)・行動指針」 の3つの要素で構成されています。

私たちは、創設者である故福島政一夫妻の「困っている人と共に生きる」という思い、そして福島一雄前理事長のリーダーシップの元で進められてきた事業展開への思いを大切に、これからも成長し続ける組織づくりに努めます。すべては子どもたちのために。

「Vision:私たちの目指す社会」

・すべての子どもたちが未来に希望を持てる社会の実現

私たちが目指す社会は、「すべての子どもたちが未来に希望を持てる社会」です。

すべての子どもたちが自分らしく生きていけること、そして、子どもたちにとって希望の持て る社会であること。そのような、社会の実現に貢献します。

「Mission and Purpose:私たちの使命・存在意義」

- ・社会的養護を必要とする子どもたちの最善の利益の追求
- ・子どもの福祉を取り巻く社会課題の解決への貢献

私たちは、子どもたちの成長する力を信じます。

私たちは、多様な個性が尊重される「日常」という安全な営みを保障します。

そして、子どもが未来に自分らしい希望を見出せるよう共に生きます。

私たちは、どのような状況にある子どもでも、権利が保障され、健全に成長していけるよう、 子どもの福祉を取り巻く社会課題の解決にも積極的に貢献します。

それらが、私たちの使命であり、存在意義です。

「Values and Credo:私たちの信条(強み)・行動指針」

Values and Credo は、6 つのバリューと 17 のクレドで構成されています。

ビジョンやミッションを達成するための私たちの信条(強み)であり、行動の指針となるものです。

Value.1 利用者の尊重

共生の精神に則り、利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスを提供します。

Credo①:子どもの権利を擁護しよう

Credo②:養育の質を向上しよう

Credo③:子どもの生活環境を向上しよう

Value.2 自立支援

利用者の持つ能力に応じて、自立した日常生活を営むことが出来るよう支援します。

Credo④:子どもの自尊心を回復させよう

Credo⑤:夢の実現を応援しよう

Credo⑥:退所後の安定した暮らしに貢献しよう

Value.3 安心・安全な生活

利用者や家族が安心・安全な暮らしができるように支援します。

Credo⑦:「共に」の精神を



Credo®:地域との繋がりを感じられる暮らしを

Credo 9:暮らしに笑顔を

Value.4 人材育成

職員の成長を促す取り組みを行い、資質と専門性の向上をはかります。

Credo⑩:多職種が力を合わせてチーム支援

Credo(11):働き甲斐のある職場づくり

Credo⑫: 社会にも貢献できる人材を育成

Value.5 信頼される組織運営

社会に開かれ、信頼される組織運営を行います。

Credo③:社会に開かれた組織運営を

Credo ④: 健全な財務規律を確立しよう

Credo(5):信頼と協力を得るための情報発信を

Value.6 地域との連携

地域住民又はその自発的な活動との連携及び協力を行う等の地域との交流に努め、地域の福祉サービスの拠点を目指します。

Credo(6):施設機能の地域への還元

Credo①: SDGs を推進しよう

<KAGs ロゴマーク>



※17 の Credo については、「Kibonoie Action Guidelines(略:KAGs)」と呼称して使用。また、17 の項目 それぞれに長期ビジョンと達成のためのポイントを設定し、実現を目指した取り組みを行う。

<希望の家ロゴマーク>



中心の笑顔の太陽が希望、建物は"お家(いえ)"で、「きぼうのいえ」を表現しています。

共生会のロゴマーク(下段葉っぱのロゴ)を下段に用いることで、 その歴史や精神が土台にあることを表しています。

「わたしらしさ、あなたらしさ」という共生会のキャッチフレーズは、多様な色と形の木々が表しています。

施設から飛び立つ鳥は一羽ではありません。必要に応じ継続的につながり続けていく職員の覚悟と、一人ではないというメッセージを込めています。

そして、これからも地域に開かれ、地域の子育て支援のニーズに 応えられる施設を目指すことを開かれた扉、鳥の親子が表してい ます。



【運営の目的と基本方針等】

1. 運営目的

児童福祉法、児童憲章、子どもの権利条約の精神を理念として社会的養護を要する子どもに対して『子どもの最善の利益』のために、その自立心を損なうことなく、心身ともに健全な人間として、家族再統合、社会参加できることをめざして日々の援助を行うことを目的とする。

2. 基本方針

- ① 男女別2つのユニットと、男女混合5つのグループホームにおいて、家庭的養護を実践する。
- ② 温かい愛情と潤いに満ちた人間関係の中で、安心と信頼にあふれる生活環境を作り、子ども同士の連帯感を強め、集団を大切にし、子ども一人ひとりが本来持っている力が伸びるように努める。
- ③入所児童とその家族を支援の対象としたソーシャルワークを実践する。
- ④ より家庭に近い養育環境を必要とする子どもは養育家庭に委託する。
- ⑤ 家庭生活の体験の機会としてフレンドホームを積極的に活用する。
- ⑥ 治療的養育環境を整備し、子どもの心の回復と安定を図る。
- ⑦ 地域コミュニティーにおいては、社会福祉分野の貴重な資源としての機能を如何なく発揮する。

3. 外部監査

定期的に公認会計士による外部監査を受ける。会計、運営に関する分析から課題を抽出し改善 方法を探る。

4. 第三者評価 (IMS ジャパン)

施設運営や養育、支援の内容について第三者による評価を受ける。評価結果については職員間で共用し、評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にできるようにする。

【令和6年度 事業計画 重点項目】

Value.1 (基本方針) 利用者の尊重

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<子どもの権利擁護> ・子どもの権利に対する、職員の意識向上の取り組みを 推進	 ・グループホーム支援員の巡回等により、権利擁護の推進と、支援の標準化を図る。 ・職員会議等で施設職員としてのあるべき姿などを繰り返し伝える。 ・グループ会議内で、子どもの権利に対して職員が話し合える機会を設ける。 ・グループ間や事業所間の交換研修の実施(視野を広げる)。 	第三者評価利用者アンケート設問9:78以上(2023:76.3%)(※I)	GH支援員 ケアワーカ <i>ー</i>	高
<共通スキル・知識の獲得> ・利用者理解・尊重に繋がる スキルの獲得と学びの機会 の確保	 ケアワークに関わる全職員がCAREスキルを獲得すると共に、トラウマインフォームドケアの概念やポリベーガル理論についても理解する。 自己覚知・自己理解を促す研修の企画・実施。 施設内での研修等が(不参加の場合等でも)いつでも確認できるシステムの構築 	第三者評価利用者アンケート設問14:70% 以上(2023:65.8%) (※2)	人材育成委員会 管理職	中
<ict化とセキュリティ> ・ICT化の推進とセキュリティ 向上のための取組みを行う</ict化とセキュリティ>	 ICT化の推進とセキュリティー向上のためにプロジェクト化し、必要な検討を行う。 上記プロジェクト内で、職員への研修、子ども向けの教育の機会を検討し、実行に向けて準備をする。 セキュリティー向上のためのガイドラインを作成する。 	取組計画の実行の有無	プロジェクト リスクマネジメント 委員会 自立支援担当職員 管理職	低

Value.2(基本方針)自立支援

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<生い立ちの整理> ・施設内における生い立ちの 整理のあり方の検討	・自立支援委員会やプロジェクト内で生い立ちの整理について検討を行い、(個別対応を基本としつつも)施設内の標準的な生い立ちの整理のあり方を検討し、まとめる。	取組計画の実行の有無	自立支援委員会 プロジェクト ケアワーカー	高
<性教育> ・性に対する職員の意識の向 上	・施設内の標準的な性教育のあり方を検討し、養育ハンドブックに反映する。・各グループの事例を共有できる場面を委員会内や会議内で持つ。	養育ハンドブックへ の反映を通して、組 織の学びとしている か	暮らしと性の委員会 プロジェクト ケアワーカー 看護師	中
<退所者支援> ・退所者への情報発信の強化・繋がりの機会の確保	・委員会やプロジェクト内で、公式LINEを活用した情報発信のあり方を 検討し、有効利用する。	退所者にとって繋が りやすく、また有益 な情報等が配信され る	自立支援担当職員 自立支援委員会 プロジェクト	低

Value.3 (基本方針) 安心・安全な生活

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
< 「共に」の精神を > ・共生会の「共に生きる」精 神を改めて問い直し、あた たかな雰囲気づくり、楽し い雰囲気づくりに努める	 ・些細な場面でも子どもたちと共に過ごせる時間を大切にする。 ・各グループにおいても、季節の行事やイベント等、子どもたちの意見を聞きながら積極的に実行する。 ・声掛けの工夫や引き出しを増やせるような研修等を企画する。 	取組計画の実行の有無	ケアワーカー 栄養士 GH支援員 人材育成委員会	10 (0)
<災害対策・事故対策> ・安全計画の運用とBCPのアッ プグレード	・2023年度に作成した安全計画が形式的なものにならないよう、職員への周知を含めて計画通り運用する。・BCPについては主要メンバーにて机上訓練を行い、実態に即したBCPへとアップグレードする。	取組計画の実行の有無	防災委員会 リスクマネジメント 委員会 管理職	中
<服薬管理の徹底> ・服薬管理マニュアルに基づいた運用の徹底	・看護師による服薬管理マニュアルの説明を改めて行う。・看護師の巡回によるチェック体制の強化。・文書管理システムを用いたチェック機能の導入を検討。・インシデント発生時には事象の分析・改善を丁寧に行い、全体周知する。	服薬に関するインシ デントの減少	看護師 ケアワーカー	低

^{※1} あなたは、職員があなたの気持ちを聞いてくれて、大切にしながら対応してくれていると思いますか※2 あなたが困ったことや嫌だと感じたこと、要望や希望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか

Value.4(基本方針)人材育成

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<業務の見直し> ・業務の効率化・生産性の向上 を図り、業務量の軽減につな げる	 業務見直しのためのプロジェクトを組織化する。 意識改革も要すことから、リーダー会議を中心に、適宜、意見交換を行う。 電話の自動音声システムの導入を検討。 	現状を検証し、年度 内に業務量軽減のた めの提案をする。加 えて、次年度に向け た具体的な取組計画 を立案する。	プロジェクト 管理職 リーダー職員	盲
<人材確保> ・全グループ6名体制の実現に 向けた採用活動の展開	 実習生に対するプログラム検討を行う。 実習終了後のアルバイト雇用(もしくはボランティア)の体制整備。 養成校等との連携強化のため、近隣大学への訪問活動を行う。 求職者向けパンフレットの作成や動画の活用等、求職者向けの発信力の強化。 	全グループ6名体制 の実現(2025年度体 制)	採用担当者 管理職 実習指導担当者 広報委員会	中
<キャリアパスの効果的運用>・2024年度より、新たに作成した組織理念に基づいたキャリアパスの運用を開始し、浸透を図る	・年度初めの全体周知・個人研修計画への活用・施設長面談 (年2回) 時の活用・養育面でバックアップの要となるGH支援員の役割の明確化とSVの実施	第三者評価機関職員 アンケート設問5-1- 2-1②:75%以上 (2023:62.9%) (※1)	管理職	低

^{※|} 私は、キャリアパスを理解できている

Value.5 (基本方針) 信頼される組織運営

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<広報力の強化> ・信頼と協力を得るための情 報発信を積極的に行う	 ・既存の広報基準の見直しと、効果的な配信方法・内容の検討。 ・法人で共催実施している「葛飾区子育てフェスタ」にて、法人の取り組みを広く周知できるよう働きかける。 ・支援者コミュニケーションについて、具体的なガイドラインを作成し、運用する。 	取組計画の実行の有無	広報委員会 広報担当者 ホームスタート担当 者 管理職	高
<苦情の公表> ・苦情の公表のあり方を検討 し、2025年度より公表する 準備を整える	・2024年度中に公表の枠組みを作り、職員、及び苦情解決委員の合意を 得ながら2025年度に公表する準備を整える。	取組計画の実行の有 無	苦情解決窓口担当者 管理職	中
<社会に開かれた組織運営> ・社会に開かれた組織運営を 行い、情報を公表する	・見学希望者や実習生等を積極的に受け入れ、児童養護施設の実態を正しく理解してもらう。・近隣住民等を対象として、児童養護施設を知ってもらうイベント等を企画する。	取組計画の実行の有 無	プロジェクト 広報委員会 管理職	低

Value.6 (基本方針) 地域との連携

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<ショートステイ受入強化> ・ショートステイ最大受け入れ 人数の増員に伴う体制強化	・職員を増員し、6名体制(5名+0.5名+0.5名)とする。 ・ハード面の拡張工事をする(現医務静養室をショート居室に)。 ・業務の見直しと効率化を図る。 ・将来的にはショートステイ事業実施場所変更の可能性を検討(本体施 設外)。	・計画内容の実行有 無 ・ショートステイ利 用者の増加	ショート担当職員 管理職	(E)
<ホームスタートの取組推進> ・ホームスタート事業が必要な 人に届くよう、広報力を強化 して利用に繋げる	・事業周知のため、関係機関や団体への説明を積極的に行う。 ・SNSを利用し、ホームスタート事業の発信を開始する。 ・「親子ふれあいサロンきぼう」の取り組みについては公式LINEも活用して利用のしやすさに繋げる。 ・よりわかりやすく、手に取りやすいチラシを新たに作成する。	・ホームスタート事業の年間利用が 70家庭以上。 ・関係機関や団体へ の説明を10件以 上行う。	ホームスタート担当 職員	中
<地域支援の新たな展開> ・地域のニーズに合致した新たな地域貢献の取り組みを検討	 ・地域支援の一つとして、社会的養護自立支援拠点事業の実施の可能性を探るため、実施団体の会合等にも参加し、現状を把握するとともに連携を深める。 ・葛飾区との連携を強化し、地域に求められる地域支援の可能性を把握する。 	・社会的養護自立支 援拠点事業実施 団体との会合へ の参加 ・ニーズ把握と地域 の子育でサービ スへの貢献	施設長 自立支援担当職員	低

予算執行 特記事項

予算執行内容と取組計画	概算額
<外壁塗装> ・新小岩ホームの外壁塗装を行う(修繕)。	4,000,000円
<サーバーと端末の入替> ・サーバーと全てのPC端末の入替を行う(経年によるもの)。	5,000,000円
<電話機器の入替> ・本体施設の電話機器 (ビジネスフォン) の入替を行う (経年によるもの)。	1,000,000円